

令和3年度 福島県立聴覚支援学校会津校学校評価 学校評価アンケートまとめ

【評価者】 保護者6名 教職員6名 【評価基準】 A:良い B:やや良い C:やや不十分 D:不十分 【意見・要望等】 ○:概ね達成できた △:さらに取り組むべきこと ●:課題(改善が必要)

	今年度の取組	評価				【保護者】 改善を要する事項・意見・要望等	【教員】 改善を要する事項・意見・要望等
		A	B	C	D		
自立と社会参加に向けた	1 子どもの教育的ニーズや合理的配慮について、本人及び保護者との合意形成を図り、「個別の指導計画」を活用し、学習指導の充実と進路実現に努めます。	保護者	4	1	1	<p>●交流の数は、感染症の影響もあったので仕方がないですが、交流に限らずお便りがいただけるまでの日数が、行事当日よりも数日前ということがあったので、できるだけ早く予定を知らせてもらいたいです。また、担任の先生の出張や不在の際の連絡なども、できるだけ連絡帳をお願いします。</p> <p>●担任とは連携がとれていると思う。担任以外の先生と、例えばコミュニケーションを取る時等、その児童に合ったものがされていない事が見ることがあった。</p>	<p>○コロナ禍でも感染状況や活動内容を鑑み、感染症対策を行いながら、居住地校での交流を積極的に行うことができた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の流行状況により、居住地校交流の回数が当初の計画よりかなり減ってしまいましたが、少ない回数の中で、相手校の児童と交流を深めることはできた。</p> <p>△個別の指導計画を作成し、活用しながら学習指導の充実と努めているが、自立活動の中心課題の設定について、今後、実態の把握、課題の整理、目標の設定など、さらに具体化できるように研修を行うことで、より充実すると考えます。</p> <p>△医療機関や福祉サービス等と利用する際に、活用していただけるように、日頃から啓発を続ける。</p>
	2 交流及び共同学習を充実させ、集団での学びの経験を通して、社会性を伸ばし、自ら考え判断して行動できる力を育てます。	保護者	4	1	1		
	3 関係機関及び本分校と連携し、「個別の教育支援計画」を活用し、発達段階に応じた生活習慣と社会性の育成を図ります。	保護者	5	1			
	教員	4	2				
	保護者	4	1	1			
	教員	6					
学力の向上と豊かな	1 一人一人の言語力を高め主体的に思考し、自ら考えて学ぶ力を育むための授業づくりに努めます。	保護者	5	1		<p>○一人一人の実態に応じた授業に先生方感謝しております。</p> <p>○感染症対策等で発表会などの行事に参加できる方が少人数だったのですが、オンライン等を通じて、竹田校さんやフコク生命さんのコンサートに参加することができて良かったです。</p> <p>△対面が難しい場合には、オンラインで交流する機会も増やしていけると、手話サークルの方々などの交流もできるので手話の向上になると思います。</p> <p>●行動の後れを取っているとき、担任以外の先生の支援があればと思うときもあった。</p>	<p>○地域との連携、ボランティア等の活用は、新型コロナウイルス感染症の予防から、計画通りに実施できないことがあったが、可能な限り機会を設けているので、今後も社会状況に応じて工夫して実施できればよいと思います。</p> <p>○コロナ禍で活動が制限されることがあったが、その中で、可能な限りいろいろな学びの場を保障してきた。今後、さらにかかわりの中で言語力を伸ばしたい。</p> <p>○一対一の授業ということもあり、児童の実態に応じた授業を実施することができた。</p> <p>△個々の実態に応じた授業の充実に向けて工夫をしているが、体制的に難しい面があり、学部間の乗り入れなども検討していく必要があると思います。</p> <p>△感染症の流行に伴い、外部とのふれあい体験ができない時期があった。オンラインなど非接触型の交流も選択肢として考えられるとよい。</p>
	2 地域との密接な連携を大切にし、ボランティア等を積極的に活用し、様々な人との触れ合いや体験を通して幼児児童の豊かな心を育てます。	保護者	4	1	1		
	3 一人一人の実態に応じた授業の充実及び質の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを大切にしながら学力の向上に努めます。	保護者	4	1	1		
	教員	4	2				
	保護者	4	1	1			
	教員	5	1				
聴覚障がい教育の専門性の向上と言語力の育成	1 幼児児童が、多様なコミュニケーション手段を活用し、言語力と学力を高められるよう研修の充実を図ります。	保護者	4	2		<p>○自分の考えを伝えようとする姿が増えました。</p> <p>○ICT機器の導入により、個人のレベルに合わせて対応してもらえて助かります。</p> <p>○一人1台使えるiPadや補聴機器等の幅もすごいと思います。</p> <p>●できればもう少し先生方と子供達のコミュニケーションの際に手話や指文字、ジェスチャーなども使用してもらえると、より子供達の言語力の伸びに繋がっていくと思います。対応をお願いします。</p>	<p>○小学部でのICT機器の活用は、GIGAスクール構想のもとでハード面で充実し、ICT支援員さんからの研修で教員の活用力の向上も図ることができたと思います。幼稚部でもインターネットが活用できる環境が整うとよいと思います。</p> <p>○今年度も、外部講師を活用し、研究授業を実施し、専門性の向上へとつなげることができた。</p> <p>△手話表現、発音指導などの実技研修や一人一授業の研究授業、外部講師の活用など、職員のニーズを取り入れながら研修を進めた。実施時期や内容等、要望を取り入れながら、バランスよく専門性を向上できるよう、より工夫できればよい。</p> <p>△研修部を中心に計画的に研修を行うことができた。実践の中で生かすことができるように、今後も幼児児童の実態について全職員で共通理解を図りながら指導にあたりたい。</p>
	2 音声、文字、手話、指文字等のコミュニケーション手段を適切に活用し、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力と伝えようとする意識を高める指導を行います。	保護者	5		1		
	3 ICT機器を積極的に活用し、一人一人の学びの実態に応じた授業を行い、教育の質の向上を図ります。	保護者	5	1			
	4 考えを深め、広がる授業づくりと一人一人の言語活動の充実を図るため、外部講師の活用や研究授業を積極的に行い、授業改善に努めます。	保護者	4	2			
	教員	6					
	保護者	4	2				
	教員	4	2				

	今年度の取組		評価				【保護者】	【教員】
			A	B	C	D	改善を要する事項・意見・要望等	改善を要する事項・意見・要望等
II 安全で安心な学校づくり	1 体力づくりと食育について、家庭と連携しながら進め、体力の向上や健やかな心身の発育を促進するとともに、新型コロナウイルス感染症などの感染症予防に努めます。	保護者	5	1			○体力づくりや食育など家庭との連携や家庭ではなかなかできなかったこと(持久走やとびばこ等)もたくさん経験できてありがたいです。 ○コロナの感染症予防についても、消毒液や体温測定設備の準備もしっかりされていて安心です。 △新型コロナウイルス感染予防のため、プールの授業が実施できなかったことは、残念に思います。	○看護師やスクールサポートスタッフの方々のきめ細やかな対応で、安心・安全な学校生活を送ることができている。 ○「防犯教室」を新たに設定して、学校全体で幼児児童の防犯意識を高めることも必要に感じた。 △交通安全教室や避難訓練を通して、防災・防犯意識を高めるように学校全体で工夫していますが、幼稚部段階での放射線教育の難しさを感じます。 ●机上の知識だけでは万が一の時に対応が難しい。教員のための防犯訓練は夏期休業中に行っているが、避難訓練と同様に、防犯訓練を児童と教員が一緒に行えると良いのではないかと。
		教員	6					
	2 校舎内外の安全点検を行い、安心安全な学校生活を確保するとともに、個人情報及び情報セキュリティの管理を徹底します。	保護者	5		1			
		教員	6					
	3 運営計画に基づき、全職員の共通理解を深め、安心安全な医療的ケアを実施します。	保護者	4	2				
		教員	6					
	4 災害や犯罪の危険を予測し、防災・防犯教育や放射線教育等を充実します。	保護者	4	2				
		教員	1	5				
III センター的機能の充実	1 医療や福祉等の関係機関と地域支援センターが連携し、乳幼児早期教育相談の充実を図ります。	保護者	5	1			△ホームページ等を見ると、教育相談に来られている方が多いので、センター的機能が図られていると感じております。 ○学校のHPの更新率が高いので、乳幼児の不安を抱える親御さんもブログで様子を知ることができ、相談の連絡もしやすいと思います。できれば全学年の交流の様子を写真付きで更新してもらいたいです。	△地域支援センターと関係機関や各学部が連携して対応でき、校内外の支援や地域のニーズに応じることができたので、今後も継続できるとよいと思います。コーディネーターの負担が大きいため、ケースによっては分担できるような体制を整えられるとよいと思います。 △地域で学ぶ難聴児の支援を継続的に行うため、次年度に向けてシステムを整理したい。 △来年度は、6年生の進路先である坂下中学校と連携をとり、計画的・定期的に支援にいけることができる体制を整えられると良いと強く感じる。 ●1歳児の教育相談が増えている、聴覚障がい専門性に加え、幼児の発達やより初期の保護者支援等、全体を見通しての相談業務が難しい。
		教員	5	1				
	2 地域の学校等に在籍する聴覚障がいのある子どもについて、一人一人の教育的ニーズに応じた切れ目のない支援を行います。	保護者	6					
		教員	5	1				
	3 地域の関係機関と連携し、校内の幼児児童や保護者への支援を行います。	保護者	5	1				
		教員	6					
	4 地域の教育関係者や保健師等との連携により聴覚障がいのある子どもの支援に関する情報を受信、発信するとともに地域のニーズに応じた研修会や学習会を開催します。	保護者	6					
		教員	6					